

「まずはやってみる」 ダメならやめれば いいんです。

田中組 株式会社

所在地:新潟市 業種:建設業 従業員:50人

業務内容

創業87年、宮大工に始まる技術を受け継ぐ総合建設業者。建築、土木などの仕事を通じて、地域社会の発展に貢献。建物の建築・リフォーム、不動産物件の斡旋、賃貸物件の管理などを行う。



代表取締役社長 田中 康太郎 さん

当社は、8年ほど前から働く環境の改善や広報活動に力を入れています。産前産後休暇の整備に始まり、社屋の移転、制服の変更、ホームページの刷新、社員ブログの運営など、変えられるものはどんどん変え、新しい取組を積極的に進めてきました。男性の育児参加支援もその一つです。根底にあるのは「社員のライフスタイルの変化を応援できない会社にはしたくない」という思い。入社してくれた社員の人生に責任をもつ覚悟で、会社づくりや環境改善に努めています。

社屋の移転に伴って、ワンフロアにしてフリーアドレス制を導入しました。毎朝、抽選器を回して座席を決めます。社歴も部署も関係なくランダムに座ることになるので、必然的に社内交流が活発になりました。実は、この制度の導入当初は、社員からの反対意見も多く出ました。人は誰でも、新しいことを始める時には、ダメな理由ばかりが出てくるものです。ですが、始めることを決断したら、「やるしかない」と諦めがついて、どうすればできるのかを考えるようになります。実際にやってみて、ダメだったらやめればいいのです。とにかく、何でも「まずはやってみる」という意識が大切だと思っています。

男性の育児休業取得も同じです。まず一人に取得してもらったら、自然と男性の育児参加を応援する雰囲気が生まれ、現場の社員が休んで欠員が生じた際も、内勤の社員が現場に出てくれて仕事を回すことができました。社員の平均年齢が若くなってきた今、特に男性の働き方の改善は必須です。1人目は私の声掛けで取得を決めてくれたようですが、徐々に「男性の育児休業取得」も社風になっていくでしょう。

人も会社も急に変わることはできません。目指す方向だけは明確に定め、全員で共有する。その上で、時代に合わせたやり方で目的達成に取り組めば、少しずつでも良くしていくことができると思います。建設業界のネガティブなイメージを払拭するためにも、これからも新しいことに果敢に取り組んでいく姿勢は変わりません。

こんな取組を推進しています!

取組1 採用段階から周知を徹底
「建設業界=男性社会」というイメージの払拭へ

取組2 ワンフロア、フリーアドレス制に移行
部署の垣根を越えて仕事をしながら、社内交流の輪を広げる

取組3 新しいことも「まずはやってみる」
「ダメだったらやめればいい」という姿勢で、何でも挑戦

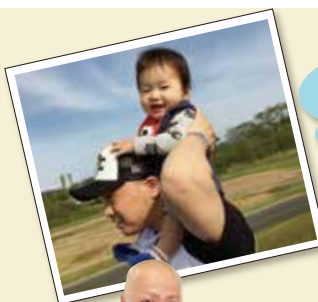
社内では育児休業取得第一号。 もっともっと増えてほしいです。

「取れるなら取ってほしい」と妻に言われていたところに、社長が勧めてくれたので2週間の育児休業取得を決めました。妻は里帰りをしなかったため、私が休めなかったら大変だったと思います。休業中は、妻をサポートしながら子どもの面倒を見る毎日。今振り返ると、我が子と一緒にいられたことが何よりも嬉しくて、貴重な時間でしたね。

私の休業中は、普段内勤をしている先輩方が現場に出て作業をしてくれたと聞きました。所長をはじめ周囲の助けがあったから、スムーズに育児休業を取れたのだと感謝しています。今は、これまで以上に若い子どもとコミュニケーションを取るよう心がけています。育児に限らず、何かあった時に助け合える環境にしていきたいですね。

仕事をしていると、どうしても子どもと触れ合う時間が限られます。「子どもと遊ぶ時間を増やすこと」が今の目標。時には、所長や同僚、後輩にもサポートしてもらいながら、送迎や食事の準備などの時間をつくっていきたいです。

イクメン社員
鷲尾 大輔 さん
(32歳)



2018年3月発行



私たちはイクメン応援宣言企業です!

新潟県では、男性労働者が育児に参加しやすい職場環境づくりに積極的に取り組む企業を「イクメン応援宣言企業」として登録しています。

もっと詳しく知りたい方は

にいがたイクメン応援宣言



<https://niigata-ikumen.jp>